

<解説書>

岡山市ジェンダー統計 岡山市の女性と男性 2022

A 人口・世帯

A-1 少子高齢化は進み、2045年には男性の29%、女性の35%が65歳以上となる予測

図1は、2020年岡山市の性、年齢階級別人口と2045年の将来推計による性、年齢階級別人口を比較したものです。2020年は、生産年齢人口(15～64歳)のうち45～49歳のいわゆる団塊ジュニアの階級と、65歳以上の老年人口のうち70～74歳の団塊の世代と言われる階級が膨らんでいて「ひょうたん型」となっています。今後も少子高齢化が一層進むことにより年少人口・生産年齢人口が減少し、2045年の推計では、年齢が下がるごとに減少する「つぼ型」となる見込みです。

【補足説明】

団塊の世代・・・戦後の第一次ベビーブーム(1947～1949年)に生まれた世代で、この時期の日本の出生数は、毎年約270万人だった。団塊ジュニアはその子ども世代を指し、ピークの出生数は1973年の約210万人。

A-2 減少傾向が続く出生数と伸びない合計特殊出生率

図2は、岡山市が政令指定都市となった2009年以降2020年までの岡山市と全国の合計特殊出生率を折れ線グラフで、また岡山市の出生数を棒グラフで示したものです。岡山市の合計特殊出生率は全国より高い水準を保っています。2010年に1.49に伸び、2011年、2013年、2015年には1.5を超えましたが、2019年、2020年には再び1.43に減少しました(全国は1.33)。なお、現在の人口を維持するために必要な人口置換水準は2.1程度とされています。

【補足説明】

合計特殊出生率・・・15歳から49歳までの年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

岡山県勝田郡奈義町では、2019年に合計特殊出生率2.95を達成。「子育て応援宣言のまち」として手厚い子育て支援策を打ち出した結果と考えられている。

A-3 女性単独世帯のうち高齢者(65歳以上)の割合は42.7%と半数近い

図3は、2000年と2020年の単独世帯における10歳ごとの年齢階級別割合を示したものです。岡山市の単独世帯総数は2000年から2020年にかけて女性は27,551世帯、男性が26,409世帯増加しています。2020年における15歳から34歳の若年層の単独世帯割合は2000年に比べ減少していますが、実数をみると女性は1,665世帯の増加、男性は2,661世帯の減少となっています。65歳以上の高齢層の割合は男女ともに増加し、女性が7.9ポイント(14,051世帯)、男性が10.2ポイント(7,281世帯)増加しています。女性は単独世帯全体の42.7%、男性は19.4%が高齢者となっており、この間、高齢者の単独世帯がいかに増加したかが伺えます。

A-4 死亡数について、女性は90～94歳が一番多く、男性は85～89歳が一番多い

図4は、2009年と2021年における岡山市の性、年齢階級別死亡数を比較したものです。死亡数が2009年では男性が2,982人、女性が2,672人でしたが、2021年には男性が3,655人、女性が3,668人となっており、男性はおよそ650人、女性は約1,000人近く増加しています。死亡数のピークをみると、2009年の女性が85～89歳、男性が80～84歳でしたが、2021年では、女性が90～94歳、男性が85～89歳とピークは右側(高年齢)にシフトしています。2021年の数値を見ると、男性は60～64歳で女性より増加幅が大きくなり、80～84歳まで上昇を続けたのち、85～89歳で急上昇して最大となります。2009年の男性と比較すると60～64歳はかなり減少しておりその差は101人となっています。女性についてみると、65～69歳までの増加は男性に比べて緩やかですが、70～74歳から増加幅が大きくなり85～89歳で急上昇、90～94歳で再上昇して最大となります。男性と女性で最も差が開くのは75～79歳で、266人となっています。また参考までに、健康寿命と平均寿命の数値(最新の令和元年データ)を比較しています。平均寿命と健康寿命の差は男性が9.87歳、女性が13.30歳です。このことから、男性に比べ女性は介護状態が長いことがわかります。

【補足説明】

健康寿命・・・WHO(世界保健機関)が提唱した指標。平均寿命から衰弱・病気・認知症などによる介護期間を差し引いて算出。日常的に自立し活動的に暮らせる期間。

A-5 悪性新生物による男性の死亡数は65歳から急激に増えはじめ、70～74歳でピークを迎える。

総数は女性の1.3倍

図5は、2021年における岡山市の性、年齢階級、死因(悪性新生物・老衰)別死亡数を示したものです。死因については男女ともに悪性新生物が最も多いですが、実数を比較すると男性の方が多くなっています。女性についてみると、40代と50代で男性をわずかに上回っていることが示されています。

【参考表】女性・男性別死因(上位5位)

	1位	2位	3位	4位	5位
女性	悪性新生物	老衰	心疾患 (高血圧症を除く)	呼吸器系の疾患	脳血管疾患
男性	悪性新生物	呼吸器系の疾患	心疾患 (高血圧症を除く)	脳血管疾患	老衰

出所 厚生労働省「人口動態統計」

B 政策・方針決定

B-1 岡山市議会議員に女性は13%しかいない

図6は、全国政令指定都市20市における議員の女性割合を2009年と2022年とで比較したものです。女性議員が減少しているのは、さいたま市、堺市、新潟市、岡山市、広島市、静岡市の6市です。岡山市の2022年の女性議員は6人で、全議員の13.0%となっています。2023年4月の選挙では候補者総数57人のうち女性が9人、当選者総数(議員定数)46人のうち女性が7人(15.2%)でした。4選挙区のうち2区は女性がトップ当選し、女性議員が0人だった南区も1議席獲得しました。

【補足説明】

政令指定都市・・・人口が50万人以上で、地方自治法第252条の19第1項で指定された都市のこと。スピーディーな行政サービスをめざし、多くの分野(例えば、保健・福祉、教育、都市計画・土木など)の権限・財源が都道府県から譲渡され、市が主体となった行政を行なっている。また、条例で区を設置し、事務を分掌させている。岡山市は北区、中区、東区、南区の4行政区がある。

B-2 女性割合は役職が上がるに従って低下している。2026年度の課長級以上の目標値は20%

図7は、2022年における岡山市一般職員の性別役職者の割合を示したものです。一般職員全体の男女構成比は、女性39.5%(2,076人)、男性60.5%(3,182人)です。しかし、課長級以上の役職者になると、女性16.9%(68人)、男性83.1%(334人)となり、女性の比率が低くなっています(※)。岡山市第5次さんかくプランでは、2026年4月1日時点の課長級以上に占める女性割合の目標値を20.0%と設定しています。

※最新(2023年4月1日現在)のデータでは、課長級以上役職者に占める女性割合は16.9%から17.6%に上昇し、目標値に近づきつつあります。

【補足説明】

さんかくプラン…岡山市は平成13年6月に、性別にかかわらず市民一人ひとりの個性が輝く「住みよいまち、住みたいまち」の創造を目的とする「岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例(さんかく条例)」を市民との協働により制定した。このさんかく条例の制定に基づき、施策を総合的かつ計画的に取り組む指針として、平成14年3月に岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する基本計画「さんかくプラン」を策定した。このプランは5年ごとに計画の見直しをおこない、現在は令和4年度から令和8年度までの「第5次さんかくプラン」期間である。

C 女性の就業と女性をとりまく社会環境

C-1 45歳を過ぎると女性の半数以上が非正規、25～59歳までの男性はおよそ9割が正規である

図8は、2020年における岡山市の性、年齢階級別、正規・非正規就業者の割合を示したものです。男女共に15～29歳までは非正規就業者の割合は減少しています。特に男性は25歳以降で極端にその割合が減少し、59歳までその傾向が持続したのち60歳を過ぎると再び非正規が増加する、という特徴的な傾向を示しています。一方、女性は30歳以降年齢を重ねるごとに非正規割合が多くなっています。男性に比べて女性ほどの年齢階級においても非正規で働く人が多くを占めています。

【補足説明】

正規…正規の職員・従業員のこと。勤め先で一般職員又は正社員等と呼ばれている人
非正規…上記「正規」以外の従業員。勤め先でパート、アルバイト、派遣社員、契約社員等と呼ばれている人

C-2 飲食サービス業は非正社員が多く、特に女性は5割を超える 女性の正社員割合は医療・福祉が一番多いが、それでも4割

図9は、2021年に岡山市が実施した企業アンケート調査をもとに、性、業種別の正社員、非正社員の割合を示したものです。小売業、医療・福祉業、飲食サービス業では女性社員の割合が多く、中でも小売業では73%を占めていますが、その構成をみると正社員35.9%、非正社員37.1%と非正社員が5割を超えているのが特徴的です。また掲載11業種のうち8業種で、女性の非正社員割合の方が男性の非正社員割合を上回っています。一方、男性社員が全社員の7割以上を占める4業種(卸売業、教育・学習支援業、建設業、情報通信業)においては、男性正社員割合が89%を超えています。

【補足説明】

調査対象は、岡山商工会議所、岡山北商工会、岡山西商工会、岡山南商工会、赤磐商工会に属する従業員10人以上の企業アンケート回収率23.0%(回収509社/2,213社)
従業員総数(役員含む)が1,000人未満の業種は下記4業種である。
電気・ガス・熱供給・水道業、不動産・物品賃貸業、専門・技術サービス業、宿泊業

C-3 時間あたり賃金の男女格差は 50 歳代で最大。

女性は 35～39 歳が最高だが、男性には届かず 2,000 円に満たない

図 10 は、2021 年の岡山県における性、年齢階級別きまって支給する現金給与と賞与他合計について、時間あたりの賃金に換算して男女の賃金格差を示したものです。男性の賃金は、55 歳から 59 歳まで右肩上がり、60 歳を過ぎると大きく低下しています。一方、女性は 29 歳まで右肩上がりですが、30～34 歳で若干低下し、35～39 歳で回復したのちも、その後の賃金上昇はほとんどありません。男性との賃金格差をみると、25～54 歳まで一貫して拡大を続けています。女性の賃金は全年代を通して男性を上回ることにはないことが示されています。

【補足説明】

時間あたりの賃金は、厚生労働省『令和 3 年賃金構造基本統計調査』を利用し、岡山県における 10 人以上の民営事業所の一般労働者を対象に以下の計算式で推計。

* 時間あたりの賃金 = { 決まって支給する現金給与額 + (年間賞与その他特別給与額 ÷ 12 か月) } ÷ (所定内実労働時間 + 超過労働時間)

C-4 2022 年度の未入園児童数は 628 人、うち待機児童数は 8 人になった。

2026 年度の目標値は「0 人」

図 11 は、2016～2022 年度までの岡山市認可保育所等入園申込児童数と未入園児童数の推移を示したものです。この間、入園申込児童数・受入児童数ともに継続的に増加していますが、受入児童数の方が増加割合は高く推移しています。棒グラフで示している未入園児童数は、認可保育所等への入園申込児童数と受入児童数との差によって推計されています。受入児童数の増加により、2020 年度は 1,386 人だった未入園児童数が、2022 年度には 628 人に減少しています。2017 年度を境に、赤の折れ線グラフで示している待機児童数が減少しているのは、国や市の待機児童の定義の変更(注1・注2・注3)によるものと考えられます。2022 年度、岡山市未入園児童数 628 人のうち、620 人は待機児童数から除外のため(注 4)、待機児童とみなされる人数は 8 人となっています(※)。岡山市第 5 次さんかくプランでは、2026 年度待機児童数の目標値を 0 人と設定しています。

※最新(2023 年 4 月 1 日現在)のデータでは、待機児童とみなされる人数は 1 人になりました。

【補足説明】

(注1) 平成 28 年度(2016 年度) 岡山市の変更

認可保育施設のどこかに空きがあれば、待機児童としていなかった定義から、第 3 希望まで聞き取り調整しても未入園となった場合に待機児童とした。

(注2) 平成 29 年度(2017 年度) 国の変更

- ① 地方単独保育施策を利用している者
岡山市が運営費支援等を行っている単独保育施策(特認登録保育施設など)
- ② 求職活動を休止している者
- ③ 育児休業中の者(岡山市は「復職の意思なし」を含む)
- ④ 特定の保育所等のみを希望している者

(注3) 平成 29 年度(2017 年度)、岡山市が国の定義に従い変更した除外項目

企業主導型保育事業、幼稚園預かり保育等

(注4) 令和 4 年度(2022 年度)の未入園児童数のうち待機児童数から除外となった 620 人の内訳

- | | | | | | |
|------------|-----|------------|------|-------------|------|
| ・幼稚園預かり保育等 | 4人 | ・企業主導型保育事業 | 152人 | ・特認登録保育施設 | 41人 |
| ・求職活動を休止 | 26人 | ・復職の意思なし | 141人 | ・特定の保育所等を希望 | 256人 |

D ワーク・ライフ・バランス

D-1 伸び始めた男性の育児休業取得率、岡山市職員男性の 2025 年度目標値は 50%

図 12 は、2015 年度と 2021 年度における全国及び岡山県内の民間事業所並びに岡山市一般職員の性別育児休業取得率について比較したものです。この 6 年間で、男性の育休取得率は着実に伸びていることがわかります。しかし、岡山市一般職員の高い伸び率に比べると民間事業所が低い伸び率に留まっている現状があります。また、女性についても民間事業所ではまだ 100%に届いていません。2021 年 6 月に育児・介護休業法が改正され、「産後パパ育休」(出生時育児休業)や育児休業取得率の公表などの男女とも仕事と育児を両立できるようにするための制度整備が進められてきています。今後はさらなる育休取得の促進に向けて、職場での取得しやすい雰囲気づくりが大切となります。

【補足説明】

産後パパ育休(出生時育児休業)・・・法改正により、子どもが生まれた直後の時期に、男性が柔軟に育児休業を取得できるよう 2022 年 10 月に創設された制度。子どもの出生後 8 週間以内に 4 週間まで、2 回に分割して取得することが可能となり、これまでの原則 1 歳までの育児休業も、2 回に分割した取得が可能となった。

岡山市職員のうち男性職員の育児休業取得率目標 2025 年度までに 50%(2022 年度実績 56.7%)

D-2 男性の育児休業取得率は向上したが、約 14%が 5 日未満、75%が 2 週間未満と取得期間は依然短い

図 13 は、2021 年度の岡山市一般職員における男女別育児休業取得期間の状況を示したものです。女性は育児休業期間「2 年以上」が全体の 67.0%に対して、男性は「5 日以上 2 週間未満」が 61.5%となっています。今後は、男性の育児休業の長期取得が可能となる環境づくりを進めていくことが求められます。

【補足説明】

岡山市は男性職員の育児休業取得促進の新しい取り組みとして、2023 年度から男性職員が 1 ヶ月を超える育休を取得する際に、代替要員(正規)を所属へ配置する運用を開始している。男性が育児休業を長期取得しやすい環境を整備することで、仕事と生活とのよりよい調和(ワークライフバランス)を実現することが求められる。

E 教育

E-1 大学院学生は、男性が女性の 2 倍

図 14 は、2022 年度における岡山県に所在する大学の学部学生・大学院学生の男女割合を表したグラフです。国公立・私立も含めた全大学の学生総数をみると、学部学生の男女別割合は、ほぼ同率となっています。1990 年時点の女子学生については、4 年制大学より短期大学への進学が多かったのですが(2017 年版リーフレット「E教育」の項参照)、その傾向が変化してきたことがみてとれます。

E-2 就学前・初等教育は主に女性が担い、高等教育は主に男性が担っている。圧倒的に、園長は女性が多く校長は男性が多い

図 15 は、2021 年度の岡山市に所在する学校(幼稚園から高等学校)における、教員と園長・校長の男女比を比較したグラフです。教員の男女比については、こども園・幼稚園などの入学前教育における女性教員比率が圧倒的に高く、学校段階が上がるほど女性比率が縮小していくことが特徴的です。一方、園長・校長などの役職については、入学前教育は女性園長比率が高いですが、小学校長ではその比率は大きく逆転し、中学・高校ではほとんどの校長が男性であることが示されています。

F 健康

F-1 20 代女性のやせは 20%を超えており、他の年代の女性と比べ顕著である

図 16 は、2021 年における岡山県の性、年代別肥満・やせの状況を示しています。BMI(ボディマス指数)を用い、18.5 未満をやせ、18.5 以上 25.0 未満を標準、25.0 以上を肥満としています。グラフからは、20 代女性におけるやせの割合が 20%を超え、他の性別・年代に比べ非常に大きいことが見て取れます。この背景には、近年浸透してきているルッキズムが影響していると考えられます。若い世代女性のやせについては、成長期の発達発育や妊娠出産に関わる問題であり、国としても課題としてとらえています。

【補足説明】

BMI・・・体重と身長の関係から算出される指数。計算式は「体重(kg)÷{身長(m)の2乗}」

ルッキズム・・・人を容姿の美醜によって評価し、身体的魅力に富む人(いわゆる美男美女)とそうでない人を差別して扱うという考え方(偏見)。

F-2 転倒による労働死傷災害は製造業、小売業、社会福祉施設では 50 代以上の件数が特に多くっており、年齢が高いほど、男性に比べて女性の方が多く被災している

図 17 は、2021 年における岡山県での労働死傷災害(休業 4 日以上)のうち、転倒についての性、年代、業種別発生状況を示したものです。発生件数を業種別にみると製造業が一番多く、女性と男性を合わせて 95 件ありました。女性についてみると、男性とは異なり社会福祉施設での事故が最も多く、製造業や小売業よりも多い結果となっています。なお、女性の社会福祉施設での事故件数 60 件のうち 10 件は 70 代以上の就業者でした。

F-3 2016 年から減少傾向にあった自殺者数が 2021 年は男女とも増加、特に女性は前年比 1.48 倍

図 18 は、2009～2021 年における岡山市の性別自殺者数の推移です。厚生労働省自殺対策推進室のデータによると、日本全体の自殺者数は 2010 年(31,690 人)から 2019 年(20,169 人)まで減少が続きましたが、2020 年には 21,081 人に増加しています。岡山市においても、2016 年以降減少傾向だったものが、男性は 2021 年、女性は 2020 年、2021 年と増加しており、特に女性は 2020 年から 2021 年に 1.48 倍と大きく増加しています。この原因として 2020 年に始まった新型コロナウイルスのパンデミックの影響があげられます。新型コロナウイルスの拡大は生活環境の変化によるストレスや雇用などの先行き不安を生み、経済的・心理的負担をもたらし、特に女性の自殺者の増加に影響したと考えられています。

G 子ども・女性への暴力

G-1 DV相談件数は、依然高水準で推移している

図 19 は、2012～2021 年度の岡山県におけるDV相談件数と裁判所の保護命令件数を示しています。岡山県の相談件数は近年増加傾向で、2021 年度は県警の相談件数こそ減少していますが配偶者暴力相談支援センターへの相談が大きく増加し、全体の件数を押し上げています。近年このような増加傾向は岡山県だけではなく全国的な傾向であるようです。なお、岡山地方裁判所の保護命令件数は減少傾向となっています。

【補足説明】

岡山県内の配偶者暴力相談支援センターは岡山市、倉敷市、津山市など、現在 5 カ所ある。内閣府は、新型コロナ対応による相談窓口の拡充にあたり、2020 年 4 月から「DV 相談プラス(電話・メール・チャット)」を開設。2020 年度には 52,697 件(DV 相談プラス以外:129,491 件)、2021 年度には 54,489 件(DV 相談プラス以外:122,478 件)の相談があった。

G-2 配偶者間暴力における被害者は圧倒的に女性。被害件数は高水準で推移している

図 20 の折れ線グラフは、2009～2021 年の配偶者間暴力によって刑法犯で検挙された事件における女性の被害件数の推移を示したものです。2012 年以後、依然として高いままに推移しています。グラフ内の数値表は、2021 年度の配偶者間暴力の被害者の性別件数とその内訳を示しています。この表からも、被害者は圧倒的に女性であることがわかります。

【補足説明】

刑法犯・・・道路上の交通事故に係る業務上過失致傷罪を除いた刑法犯等のこと。凶悪犯(殺人、強盗、放火、強制性交等)、粗暴犯(暴行、傷害、脅迫、恐喝等)、窃盗犯、知能犯(詐欺、横領等)、風俗犯(賭博、公然わいせつ、強制わいせつ)、その他の刑法犯などがある。

G-3 全国では増加傾向の児童虐待相談対応件数が、岡山市では横ばいで推移している

図 21 は、2012～2021 年度の児童相談所における児童虐待相談対応件数を岡山市ならびに全国について示しています。岡山市の対応件数は男女で大きな差は見受けられませんが、年間 300～500 件の間を横ばいで推移しています。一方、全国は右肩上がりの増加で推移し、この 2 年間は 20 万件を超えています。岡山市の児童虐待相談は、児童相談所(岡山市こども総合相談所)に加えて、岡山市内 6 カ所にある各福祉事務所の地域こども相談センターでも行っています。岡山市内では、2022 年 1 月に女兒が虐待死するという痛ましい事件が起きてしまいましたが、現在は事件に関する検証報告書に基づいて、改善が行なわれているところです。

【補足説明】

2021 年度地域こども相談センター児童虐待相談対応件数・・・299 件

G-4 主たる虐待者は実母割合が高い。10 年前と比較すると実父の割合も増えている

図 22 は、2010～2021 年度の岡山市における虐待相談対応の主たる虐待者別割合の推移です。この 10 年余りをみると、実父による虐待が増えていることがわかります。2004 年 10 月の児童虐待防止法の改正により、子どもの前での配偶者間の暴力(暴力を伴わない夫婦げんかも含む)のようないわゆる面前 DV は、子どもへの心理的虐待として扱うことが明確化されました。そして、2013 年 12 月に、警察が DV 事案への積極的な介入及び体制を確立したことに伴い、警察から児童相談所への通告が増加したと考えられます。

【その他用語解説】

男女共同参画社会

「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」のこと。(男女共同参画社会基本法第2条)

引用:内閣府男女共同参画局ホームページ(http://www.gender.go.jp/about_danjo/society/index.html)

ジェンダー

「社会的・文化的に形成された性別」のこと。社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」(ジェンダー/gender)といい、生物学的性別(セックス/sex)とは区別される。

参考:内閣府男女共同参画局ホームページ用語(http://www.gender.go.jp/about_danjo/society/index.html)

ジェンダー統計

男女間の意識による偏り、格差及び差別の現状並びにその要因や現状が生み出す影響を客観的に把握するための統計のこと。

引用:内閣府男女共同参画局ホームページ 用語(http://www.gender.go.jp/about_danjo/glossary/index.html)

割合の算出は少数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合もある。

「岡山市ジェンダー統計リーフレット」の発行にあたって

リーフレット「岡山市ジェンダー統計岡山市の女性と男性 2022」及び解説書は、市民協働事業として「さんかく岡山」登録団体「ジェンダー統計を語ろうかい」と岡山市が協働で作成しました。

作成過程では九州国際大学教授小野寺剛さんに、ご助言、ご指導いただきました。厚くお礼申し上げます。

また、データ収集にご協力いただきました各関係機関の皆さまに心より感謝申し上げます。

■市民協働事業■

市民協働事業は、女性が輝くまちづくりの推進及び男女共同参画社会の形成を促進する事業について、市民から提案された企画案をもとに市と市民が協働で実施することにより、より効果的な事業推進を図ることを目的としています。

■リーフレット・解説書作成メンバー■

建井順子(島根県立大学准教授)

青木美智子 有元征子 内田武宏 鬼木のぞみ 栗原裕子

角田みどり 真邊和美 万城公美子 森水緒 [ジェンダー統計を語ろうかい]

[事務局]

岡山市男女共同参画社会推進センター「さんかく岡山」

■問い合わせ先■

岡山市男女共同参画社会推進センター「さんかく岡山」

〒700-0822

岡山市北区表町三丁目14番1-201号

TEL086-803-3355 FAX086-803-3344

E-mail:sankaku@city.okayama.lg.jp

2023年7月